

ありがとう 絵はがきに託し

「ありがとう」の気持ちをテーマにした絵はがきを子どもたちへ配布し、周りの人への感謝の気持ちを書いてもらおうという活動が今月から始まった。発起人の一人で、エッセイストの太田空真さん(58)は「ありがとう」という思いをストレートに表現する習慣が広がることで、少しでも世の中が明るくなれば」と期待している。

(前田利親)

太田さんは8年前に出版した著書「人生最高のラブレター」などで、遺書の代わりに家族らに



子どもたちへの配布が始まった「ありがとうのはがき」。絵や写真は、感謝の気持ちや人との交流をテーマとしている

あてた手紙を書く活動を広めてきた。「感謝の気持ちは誰もが持っているが、きっかけがないと表に出にくい」と実感する。今回は、次の世代を担う子どもたちを対象に、NPOや企業の関係者らと共に運営組織「チーム3ミニッツ」を設立。協賛企業を募ったところ、16社が賛同し、毎月8000枚の絵はがきの印刷が可能となった。希望のあった全国の小学校や子ども会に無料配布を始めている。子どもたちに1日3分間、その日抱いた感謝の気持ちを振り返ってもらい、文章をはがきに書いてもらうのが狙いだ。郵送してもいいし、手渡してもいい。はがきに使われる絵や写真は大人も含めた一般から募集した作品から毎月4種類を選ぶ。1

月は農村で頼りにされている若者を描いた絵や、旅先のタイで見かけた親子の触れ合いを捉えた写真などで、いずれも見た人の気持ちを和ませる仕上がりとなっている。採用作以外もホームページ(<http://www.team3min.jp>)で公開している。一般への配布も行っており、郵送料を送れば絵はがき4枚1セットが手に入る。太田さんは「今の社会は殺伐とした雰囲気(56)で、に包まれているが、はがきをきっかけに温かい交流を広げたい」と意気込んでいる。はがきの希望者は郵便番号、住所、氏名、電話番号などを書いて80円切手2枚を同封し、〒530・0047大阪市北区西天満4の13の5、エスリード御堂筋梅田306「チーム3ミニッツ」へ。問い合わせはファクス(050・3617・4356)で。

こどもの詩

けしゴム

小菅 桃寧

まちがいをけすたびに
小さくなる けしゴム
かどがなくなつて 丸くなつて
つめで つまむようにして
最後の最後まで使った
形がなくなるまで使えたことが
なんだかうれしい

(横浜市・相武山小4年)

最後の最後まで使って、消しゴムを使いきったのに、あれ、まちがいのほうは、やっぱりなくならない。(長田 弘)